



## 第64回校内駅伝競走大会が開催

8月30日(日)に五箇中学校の伝統行事である校内駅伝競走大会が開催されました。五箇地区内の約12kmのコースを8区間に分け、5チームが襷をつなぎ区内を走り抜けました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により規模を縮小しての大会となりましたが、昨年と同様に消防団や警察署、五箇地区交通指導員の方々にご協力いただきました。また、PTAの方々には選手の輸送や昼食の提供を、そして、五箇小学校の6年生の皆さんが大会に参加をし、大会を盛り上げていただきました。多くの方々のご協力により、駅伝大会が無事に終了できましたことに感謝いたします。



【駅伝に参加する5チームとスタート係】



【優勝したBASASHIチーム】

競技は、小学生や保護者の選手の方の活躍で、PTAチームが最終区でトップを走り、歴史的快挙か?と思わせましたが、BASASHIチームの最終ランナーの大竹陸翔君がゴール手目で追い抜き、見事、BASASHIチームが1位でゴールテープを切りました。

駅伝では、チームが結束しチーム同士で競い合い、区間賞を争うことも大切ですが、この大会は、地域の方々の協力を得て地域を挙げての行事として成し遂げることに意義があります。地域の方々から選手が暖かい声援を受け、沿道を走り抜け襷をつないでいく姿を見て、改めて、地域の方々に支えられ、地域の方々と共に五箇地区の子供達が成長していると感じました。

来年の駅伝大会でも、小学生や中学生が五箇地区の地域の方々に沿道で声援を受けながら、地域への思いを胸に前を向いて沿道を走り抜いてくれることを願っております。

ご協力いただきました警察署や消防団の方々、五箇地区交通指導員の方々、PTAの保護者の方々、五箇小学校の6年生の皆さん、ありがとうございました。そして、沿道でのご声援ありがとうございました。

## 新型コロナウイルス感染症を正しく理解しましょう

2学期が始まり、福島県内や白河市、近隣の市町村でも新型コロナウイルスの感染事例がみられるようになってきています。いつ、自分や身近な人が感染症にかかるか心配されている地域や保護者の方々も多いのではないかと思います。そのような中で、何よりも感染症を正しく理解し、感染予防と感染拡大の防止に向けてのよりよい実践が重要になってきます。また、感染症に対する不安から陥りやすい差別や偏見等について考え、適切な行動をとることが、学校や地域で必要になります。

本日、全校生で、文部科学大臣からのメッセージを活用し、新型コロナウイルスの感染症について再度考えてみました。以下が、生徒の皆さんや保護者、そして地域の方々実践していただきたい内容です。

- 感染症を予防するには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること。
- ウイルスから、自分自身を守るため、そして、大切な人を守るため、基本的な感染症対策や「三密を避ける」等の予防策を徹底すること。
- 誤った情報や認識、不確かな情報に惑わされることなく、正確な情報や科学的な根拠に基づいた行動をとる。
- 感染者、濃厚接触者等とその家族に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないこと。
- ウイルスに感染しても症状が出ない場合があり、自分が知らないうちに感染を広めることもあることから、重症化するリスクが高い高齢者や基礎疾患がある方に接するときには、注意が必要であること。
- 感染者や濃厚接触者が出たとしても、ウイルスが体内からなくなれば、感染しないので、治ってきたときに温かく迎える思いやりをもつこと。

本日、「保護者や地域の皆様へ」の文科相のメッセージを別紙にて配付いたしましたので、ご家庭や地域の方々においても、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないことをご理解いただき、学校における感染症対策と教育活動の両立に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。